

今井克義君 樋浦教育課長卓話ありがとうございます。子供達の歯の健康管理でもお世話になっています。

安田貞夫君 久しぶりの例会です。

早川龍雄君 BOXに協力

山崎勲君

小林満君 BOXに協力

落合益夫君 BOXの安田さんに協力。

* 8月のコメント賞は該当するコメントがありませんでした。楽しいコメントお待ちしております。

「新世代の為の月間」

卓 話： 「最近の教育の話題から」 三条市教育委員会学校教育課長 樋浦貞吉様



今年の5月、三条市で生まれ育ち、スウェーデンの方と結婚された女性の方の話を聞く機会がありました。少し考えさせられる話でしたので、紹介します。

お子さんは小学生で三条の学校に通っていたのですが、一時スウェーデンに戻り、再び日本に帰って現在、三条に住んでおられる方の話ですが、お子さんに「日本とスウェーデンの学校、どちらがいいか」というようなことを聞いたんだそうです。そしたら、「スウェーデンの学校は何をするにしても自分で考えなければならないので疲れる。日本の学校はみんなと同じことをしていればいいので楽だ。」というようなことを言ったんだそうです。スウェーデンでは学校だけではな

く、家庭でも小さい頃から自分のことは自分でする考え方が徹底している面があるようです。

1. 日本の子どもの現状

では、最初に日本の子供達の実状について今までに実施されました調査等をもとに少し話をいたします。

①教育課程実施状況調査（昭和56～58年度、平成5～7年度の2回 文部省）

覚えることは得意、計算の技能や文章の読み取りの力などもよく身に付いている。しかし、学習が受け身で自ら調べ判断し、自分なりの考えを持ちそれを表現する力が不十分である。

②学校教育に関する意識調査（平成10年 文部省）

授業の理解度、満足度ともに学年が進むにつれ低下。

③国際数学・理科教育調査（国際教育到達度評価学会（IEA）平成7年、11年）

日本の子どもの成績は戦後一貫してトップクラス（同一問題による経年比較でも低下していない）、しかし、数学や理科が好きである、将来それらに関する職業に就きたいという者の割合が他の諸外国に比べ、低い。→将来にたいする夢や問題意識があまりないのではないかと。

④生徒の学習到達度調査（平成12年 経済協力開発機構（OECD））

日本の高校生は32カ国中、トップクラスの成績（数学的応用力1位、科学的応用力2位、読解力8位）、しかし、宿題や自分で勉強する時間、読書をする生徒の割合は最低。

⑤生活体験、自然体験と道徳観、正義感（平成10年12月 文部省）

生活体験（小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと、ナイフや包丁で果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと、等）や自然体験（チョウやトンボ・バッタなどの昆虫をつかまえたこと、川や海で貝を取ったり、魚を釣ったりしたこと、等）をしたことが多くある子どもほど道徳観

や正義感がある割合が高くなっている。

一方、子どもの調査ではないのですが、日本経済新聞社では2年ほど前、若手社員や日本の教育システム等に関するアンケート調査を有力企業の経営者を対象に実施しています（回答者106人）。その結果をみますと、若手社員については「社会常識・マナーの欠如」や「コミュニケーション能力の低下」を指摘、日本の教育システムが抱える問題で、最も深刻だと見ているのは「進んで問題を見つけて解決する能力の不足」が56%と、過半数の回答が集中しています。科学技術の目まぐるしい進展、情報化、国際化など、急激に変化している社会で遅しく生き抜いていくためには思考力、創造力、主体的に取り組む力などを身に付けていないと通用しない、ということかと思えます。

これらの現状から日本でも教育改革が進められてきている訳ですが、教育に関する課題は山積しており、これからも教育の変革期は続いていくものと思っています。

2. 学校完全週5日制

皆様御承知のように今年度から完全学校週5日制の下、新しい教育課程がスタートしました。5日制の趣旨等についてはいろいろなところで見たり聞いたりしているかと思うので、本日は別の視点、世界の中での日本の5日制について少し話をさせていただきます。

諸外国の情勢を見ますと、世界の大勢（約90カ国）はすでに学校週5日制を実施しております。例えばアメリカでは公立校の急増による教員不足、教員の女性化等から百年以上も前から実施しております。（小中学生の学力は中の下レベル。公立校は授業時間を延ばし、音楽や体育の授業を減らしている）

また、国民の多くがカトリック教徒であるフランスでは公立学校における宗教教育が禁止されており、親が自由に家庭で宗教教育が行えるように日曜日以外に水曜日が休みになっているということです。土曜日は半日ですが、さらにこの日も休みにして学校週4日制が導入されつつあります。親の教育権思想が強力で「知的教科を中心とする勉強」が学校の役割であるとする学校感に立てばこそその発想です。それでもフランスでは「学力」が低下するという話を聞いたことがないそうです。

また、ドイツでは労働時間の短縮から週休2日制になり、結果的には学校週5日制となっています。（ドイツではOECDの学力調査で読解力、数学的分野、科学的分野とも20位前後に低迷しており、学力の低下が問題になっている。今までは昼前に授業が終わるのが常識だったのが、来年度からは午後も授業をする学校が激増する見通し。）

しかし、日本の学校週5日制は、「子どものための学校週5日制」、「教育改革としての学校週5日制」として位置づけられており、諸外国ではこのような国は皆無に近いといわれています。わが国の学校週5日制は壮大な教育改革実験ともいえると思います。

社会に定着するには時間がかかり、ここしばらくは論議が続くものと思っています。

3. 総合的な学習の時間

いろいろなところで「学力低下論」が叫ばれており、学校現場では何とんでも「学力向上」が最大の課題となっています。しかし、最初に述べた現状から知識・技能は重要ですが、単なる知識の量のみでなく、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力まで含めて学力ととらえる必要があります。

なお、学習への関心・意欲・態度や将来の生活に関する課題に適應する能力を重視するのは国際的な流れとなっています。

その目玉として『総合的な学習の時間』が導入された訳ですが、一言で言いますと、①地域や学